

地域連携NEWS

Vol.37 2013.3 発行

東京都健康長寿医療センター
地域連携部医療連携室

〒173-0015

東京都板橋区栄町35番2号

TEL 03(3964)1141(代表)

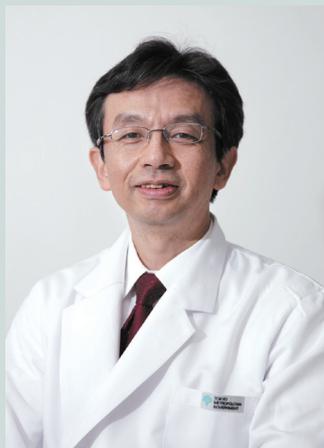
連携室内線 2117、2119、2187

03(3964)4890(予約専用電話)

FAX 03(3964)1392(医療連携室)

糖尿病・代謝・内分泌内科のご紹介

糖尿病・代謝・内分泌内科 内科総括部長 荒木 厚



糖尿病・代謝・内分泌内科は、常勤医5名、シニアレジデント2～3名、非常勤医2名で病棟と外来の診療を行っています。糖尿病学会、内分泌学会、老年病学会、病態栄養学会の専門医、指導医がいて、研修医の指導にも力を入れています。

8西病棟29病床を担当し、糖尿病や内分泌疾患の入院患者は年間約350名となっています。血糖コントロールパス（7～20日）と合併症評価パス（3日間）を合わせたクリニカルパスは年間100名を超えています。外来では年間延17,000人の診療を行っています。

私たちの治療のキーワードは「個別性を重視した治療」「柔軟性のある治療」「未来志向の治療」、そして「チーム医療」です。

糖尿病の治療薬は多くの内服薬、インスリン、GLP-1受容体作動薬の注射など、ますます選択肢が増え、どのような治療薬を選んだらいいか、また、どの程度まで血糖をコントロールしたらいいか迷う例が少なくありません。

当科では、高齢者総合機能評価を用いて、患者さんの様々な条件を評価して、どのような薬剤がふさわしいかを選択し、「個別性を重視した治療」を行っています。患者さんの条件とは、認知機能、心理状態、身体機能、インスリン分泌、インスリン抵抗性、低血糖のおこしや

すさ、腎機能、合併症、併発疾患、家族や社会サポート、治療の意欲などです。

また、認知機能低下例が多いことから、在宅や施設の医療にスムーズに移行するために、独自の方法でインスリンの離脱やインスリンの回数を減らす試みを行い、「柔軟性のある治療」を行っています。

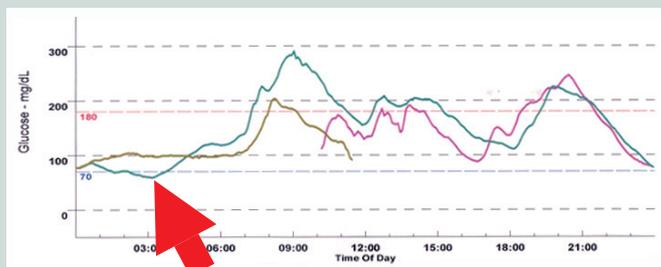
さらに、持続血糖モニター（CGM）の機器を5台導入し、高齢者の無自覚低血糖や血糖の変動を評価しながら経口薬やインスリン量の調整を行う治療も行っています。

最近、高齢の1型糖尿病患者にもインスリンポンプを行う試みを開始し、将来の人工臓器による治療を見据えた「未来志向の治療」をめざしています。

医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師など多職種で糖尿病教室（病棟は週1回、外来年4回）を行い、「チーム治療」で患者とその家族の療養指導を行っています。

フィットケア外来は糖尿病認定看護師（小林美奈子）、糖尿病療養指導士（野崎眞佐江）、皮膚・排泄ケア認定看護師が担当し、糖尿病性足病変の予防を行っています。また、最近、医師、看護師、栄養士が同じ日に指導し、腎機能の悪化を予防する「透析予防外来」という外来を開始しました。

糖尿病という病気を見るだけでなく、「糖尿病を通して患者の全身を診ること」が当科のモットーですので、急性疾患も含めて、ご紹介いただくようお願い申し上げます。



夜間の無自覚性低血糖

図 CGM（ブドウ糖モニター）で無自覚性低血糖を認めた一例

新病院建設中！



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター
TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL



アクセス

- 東武東上線「大山」駅下車、南口・北口より徒歩5分
- 都営地下鉄三田線「板橋区役所前」駅下車A2出口より徒歩10分（徒歩80m/分）
また、お車でお越しの方に駐車場（駐車料無料）も御用意しておりますが駐車台数に限りがあるため、あらかじめご承知おきください。

センター施設紹介 (Vol.8)

センターの新しい正門付近の外構整備に先立ち、澁澤栄一翁像の移設が行われました。

記録によると、この像は現在地に至るまで複数回移動を経験しているようなのですが、今回もどのように移設するかが工期及びコスト面での大きな検討課題となりました。

およそ6メートル四方の台座の高さが約2メートル、さらにその下に基礎が3メートルほどあります。築後80年が経過し、風雨による劣化も著しいため、いわゆる「曳家」方式による移設は、転倒や崩壊が危惧されました。このため、台座から像を切り離し、基礎と台座を再構築する方法を採用することになりました。

台座に使用されていた石は、一つひとつ丁寧に解体し、新たな場所で寸分の狂いもなく復元されました。一目では土台ごと移設したのではないかと見間違えるほどです。

リニューアルした初代養育院長、間もなく公開です。お楽しみに。



台座から取り外される澁澤栄一翁

新病院の概要について

新施設における3つの設計コンセプト

1. 地域と共生した環境づくり
2. 高齢者医療の先端をめざした施設づくり
3. 独立行政法人としての安定経営への基盤づくり

Concept-1. 地域と共生した環境づくり

- ①. 地域に開放された「光・緑・水の溢れた環境」の創出
- ②. 地域の環境と調和したシンボル性のある外観
- ③. 自然環境を活かしたエコシステムの導入

今回は新施設における3つの設計コンセプトのうち、1. 地域と共生した環境づくりを紹介します。



屋上庭園



太陽光発電設備



壁面緑化イメージ

緑豊かな環境と
太陽光発電の設備